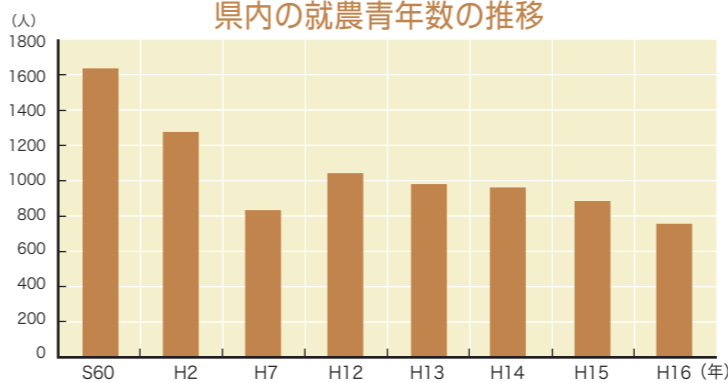


農業で頑張る あなたを応援します

農業に従事する人は年々減少していますが、近年、都会から地元に戻って実家の農業を営むUターン就農者や農家以外からの新規参入者であるIターン就農者などが農業を始めるといったケースがよく見られ、経営や販売企画の面で従来とは違った新しい農業が展開されています。
今回はそのような中、若い世代で農業に従事している就農青年と女性起業で頑張る人たちの活動の様子を主に紹介します。



県内の就農青年数の推移



農業後継者としてのはばたけ 就農青年

農業に従事する人が年々減少する中、後継者、特に十六歳から三十五歳までの若い世代の育成が大きな課題となっています。しかし、若い世代で仕事として農業を営む人の数も農業全体の従事者同様、減少傾向にあるのが実情です。

県では、農業後継者を育成するために各種支援を行っており、将来、農業を職業として理解してもらうため、小中学生および高校生を対象に各農業改良普及センターを中心に行われている農業体験活動を支援しています。

また、同普及センターでは、農業を営みやすい環境をつくるため、若手の農業従事者を対象に専門講座を開催、県立農業大学校では、野菜・果樹・花き・畜産の各専門コース別に実践教育を行っています。

さらに、財団法人沖縄県農業後継者育成基金協会では、新しく農業を始め方を対象に農家への派遣研修を行ったり、資金の貸し付けや相談などを行っています。

■就農青年の活動状況 〜農業青年クラブ〜

①全国区での ネットワーキングづくり

若い世代の農業後継者が集う農業青年クラブは各市町村ごとにあり、県内五地区（北部・中部・南部・宮古・八重山）ではそれぞれ連絡協議会が設置されています。それら連絡協議会をメンバーとする団体が沖縄県農業青年クラブ連絡協議会です。

この協議会では、日頃の活動の成果を発表する県大会を開催して互いの技術向上を図るほか、九州・全国の会議や研修会にも積極

極的な派遣を行っています。全国各地の農業青年との交流を通じて得られた知識や経験は生産や販売活動に、将来の地域リーダーとしてのネットワーキングづくりにつながっています。

②消費者交流会の開催

南部地区農業青年クラブ連絡協議会では、一般消費者に、農作物がどのように生産されているのかを知ってもらうため、毎年三月に消費者交流会を実施しています。



昨年の消費者交流会におけるミニトマト収穫体験の様子

昨年の交流会では、ピーマン・バラ・花鉢物の育て方についてクラブ員の畑で説明を行ったほか、ミニトマトの収穫体験を実施しました。大好評だったこの企画、今年三月にも開催を予定しています。皆さんもぜひ、ご参加ください。

■就農青年を目指して農大で学ぶ

県立農業大学校では、講義・実験・実習を組み入れた実践的な教育を行っています。

在学中の二年間で、土づくりなどの農業に関する基礎的講座から農作物の栽培・収穫・出荷までを経験します。また、学生が自分で課題を決め、それに向けて農



作物の生産計画を設置して栽培を行うなど実際の農業経営を想定したカリキュラムもあります。

卒業生は、平成十七年四月現在九百七十人に上り、各地域へ戻って農業青年クラブ員として活動するなど、若き担い手として活躍しています。

おきなわ花と食のフェスティバルで直売市を開催

日時：2月4日(土)・5日(日) 10時から18時まで
場所：沖縄コンベンションセンター、宜野湾市立体育館など

「おきなわ花と食のフェスティバル」ではヤングファーマーズフェスタ(直売市)を開催します。

「ワッター、ハルサーセールスマン!」をスローガンに、就農青年が自ら生産した野菜、花、くだものなどの農産物を販売したり、花の栽培について講習会などを実施します。